



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2024 7 月号

Vol.161

毎月1回発行(通巻161号)
編集: 日本医療企画一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目20番5号 S-GATE八丁堀9F TEL.03-3553-2906 <http://www.JMMPA.jp/>

新代表理事に元厚生労働審議官の原勝則氏が就任 医療経営士のさらなる活躍を期待

一般社団法人日本医療経営実践協会は2024年度上期理事会を開催、新たに原勝則氏(公益社団法人国民健康保険中央会理事長)を代表理事に選任、全会一致で可決した(新役員一覧を2面に掲載)。新たに代表理事に就任した原勝則氏より会員の皆さまにご挨拶申し上げます。

この度、前代表理事の吉原健二先生よりお声掛けをいただき、後任として代表理事を拝命いたしました。

これまで厚生省(現厚生労働省)に37年、その後国民健康保険中央会に8年在籍しております。なかで、本協会の事業の重要性は非常に強く感じております。副代表理事の小川眞史氏、小松本悟氏はじめ、役員の皆さまの協力添えをいただきながら、代表理事として尽力してまいります。何卒よろしくお願いいたします。

医療経営の現場を動かす スペシャリストを育てる

医療界の現状を見ますと、少子高齢化、人口減少が続く、また働き方改革の進展という背景もあるなか、人材不足が大きな課題になっていきます。これから

将来にわたって国民皆保険体制を堅持し、国民に良質な医療を継続して提供していくためには、マクロとミクロな視点があると思っています。

マクロな視点では、医療保険制度と医療提供体制という大きな2つが車の両輪として確実に機能していくことが重要です。ミクロな視点では、医療サービスの提供主体である医療機関の経営が安定することです。この両方の視点から取り組んでいかなければ国民の皆さまに良質な医療を提供していくことが難しくなると考えています。

ここで大切なのは、制度やシステムをいくら用意しても、それを効果的・効率的に活用できる人材がいなければ意味がないということです。医療経営士という

資格は、医療機関の経営の持続可能性を高めるために、経営者・管理者の手足となり、時に頭脳となって、医療経営のスペシャリストとしての立場から経営を補佐する役割だと認識しています。今後、医療経営士のような存在はますます重要になってくるでしょう。

医療機関には国家資格である医師をはじめさまざまな職種の方がいますが、特に現場においてはそういった方々をつなぐリンクワーカーのような存在が欠けているのではないかと実感しています。医療機関においてはそういう人材を育てていくことが不可欠です。医療経営士の方はあまり立場にとらわれず、必要なことを自由にできる立場だと思っています。そういう意味で、専門職のリンクワーカー、病院のなかの総合調整役といった役割を担うことも期待したいと考えています。

地域づくりに参画できる 新たな役割に期待

私の持論にもなります

が、人口減少がこれだけ進む中で、これからの社会保障は「地域づくり」という視点でやらないといけないと思っています。特に過疎地の医療機関は住民にとって地域の財産であり、なくてはならない社会資源です。医療機関もそういう意識を持ちながら、単に医療サービスを提供するだけでなく、地域づくりを進めていく中核のひとつとなることが求められているのではないのでしょうか。

直接医療と関係のない分野でも、地域のなかの医療機関の存在という部分を意識して、地域とのつながり、かわりをつくっていく。そういう役割がこれからは不可欠であると思っています。そして、医療経営士の皆さんにはぜひそのような場面で存在感を発揮していただきたいと考えています。



原勝則新代表理事

第13回

全国医療経営士実践研究大会

福岡大会

開催日

2024年
12月1日
日

大会テーマ

医療経営士の働き方が病医院を 変革する

～今、求められるマネジメント能力と
具体的実践方法～

大会運営委員長

矢野正子

日本医療経営実践協会九州支部支部長/
聖マリア学院大学名誉学長

会場

オリエンタルホテル福岡 博多ステーション

※開催前日の11月30日(土)に懇親
会(前夜祭)を行います。詳細はホ
ームページでご確認ください。

一般社団法人日本医療経営実践協会 役員一覧

役職	氏名	所属等
代表理事	原 勝則	公益社団法人国民健康保険中央会理事長、元厚生労働審議官
副代表理事	小川 眞史	特定非営利活動法人臨床検査支援協会理事、元株式会社エスアールエル取締役会長・代表取締役社長
副代表理事	小松本 悟	日本赤十字社足利赤十字病院監督官兼名誉院長、藤田医科大学特命教授
理 事	安藤 高夫	公益社団法人全日本病院協会副会長、一般社団法人日本慢性期医療協会副会長、一般社団法人東京都病院協会副会長、医療法人社団永生会理事長、医療法人社団明生会理事長、日本医療経営実践協会関東支部支部長
理 事	泉 並木	一般社団法人日本病院会副会長、日本赤十字社武蔵野赤十字病院院長
理 事	大久保 清子	一宮研伸大学学長、元公益社団法人日本看護協会副会長
理 事	大宮 謙一	医療法人社団尚志会東京ツナクリニック院長、医療経営士1級、医療経営指導士
理 事	加納 繁照	一般社団法人日本医療法人協会会長、社会医療法人協和会加納総合病院理事長・院長
理 事	神野 正博	公益社団法人全日本病院協会副会長、一般社団法人日本病院会常任理事、社会医療法人財団董仙会理事長、日本医療経営実践協会北陸支部支部長
理 事	熊田 貴之	エーザイ株式会社、医療経営士1級
理 事	濃沼 信夫	東北医科薬科大学臨床教授・名誉教授、東北大学名誉教授、日本医療経営実践協会東北支部支部長
理 事	真田 弘美	石川県立看護大学学長、元公益社団法人日本看護協会副会長
理 事	須田 清	弁護士、埼玉県医師会法律顧問
理 事	田中 徳雄	学校法人京都薬科大学常任理事
理 事	林 諄	株式会社日本医療企画代表取締役
理 事	原 正英	株式会社日本医療企画、医療経営士1級
理 事	向 元気	アルフレッサ株式会社、医療経営士1級
理 事	吉長 成恭	特定非営利活動法人日本園芸福祉普及協会理事長
監 事	依知川 功一	コンパッソ税理士法人、社員税理士
最高顧問	吉原 健二	前一般社団法人日本医療経営実践協会代表理事、元厚生事務次官
名誉会長	小林 利彦	前東京大学薬友会会長
参 与	浦山 聡	医療法人徳洲会松原徳洲会病院参与、岸和田商工会議所副会頭
参 与	中村 彰吾	公益社団法人医療・病院管理研究協会理事
参 与	真野 俊樹	中央大学ビジネススクール大学院戦略経営研究科教授

敬称略(理事・参与 氏名五十音順)

T O P I C S

演題発表は成長の大きなチャンス
全国大会を飛躍のステップに！

昨年の全国医療経営士実践研究大会の演題発表では、社会医療法人加納岩財団事務局経営企画室課長の横内聖輝氏が審査委員奨励賞を受賞した。横内氏の発表を後押ししたのは同財団の事務局長を務める宮沢圭一氏。自身も演題発表の経験を持つ宮沢氏に、全国大会の演題発表に登壇することの意義や組織への効果等についてお話を伺った。

演題発表への登壇が成長につながる

私が登壇したのは2021年にオンライン開催された第10回WEB大会でした。組織改革について発表しましたが、その内容をご高名な審査委員の先生方に審査していただき、リーダーシップ賞を受賞できたというのは、自分がやってきたことが間違いではなかったと認めていただいたように感じました。もちろん自分たちではよかれと思って取り組んできたのですが、それが外の人から見てどうなのかはわかりません。発表を評価していただけたというのは非常にありがたかったですし、これからもさらに取り組んでいこうというモチベーションにもなりました。

オンライン開催でしたので動画を提出する形でしたが、外の方に向けてお話をする機会はなかなかありませんし、スライドの作成において、自分自身が取り組んできたことを振り返り、課題の抽出から解決に向けた仮説立て、実践、評価という流れで改めて整理できたという経験も貴重だったと思っています。

昨年の第12回大阪大会には当法人の横内聖輝氏が登壇し、審査委員奨励賞を受賞することができました。組織として経営企画室を立ち上げて、何をやればよいのかわからないま

ま一から始めていくなかで、その成果が実際に数字として出てきたこともあり、横内には「経営企画室として取り組んだことを発表しようよ」とこちらから声を掛けました。業務命令に近い感じでしたが「大阪に連れて行ってあげるから」ということで(笑)。結果として審査委員奨励賞を受賞でき、その後法人内でも理事長から特別表彰されました。本人にとっても大きな自信になったのではないかと思いますし、成長につながる機会になったと考えています。今年の福岡大会でも新たに登壇者を出す予定です。全国大会の演題発表を経験させるということは、職員の成長を促すという意味でも非常に有意義だと考えています。

また別の観点から言うと、「全国に法人の名前が売れる」ということも重要な意味があると考えています。医療経営士が集まるところで声を掛けられるようになり、新しい横のつながりができていく。そこから新しいネットワークが広がっていくということも大事なことでないでしょうか。

実践を発表することに意味がある

この協会は「日本医療経営実践協会」ですから、実践したこと、いかにチャレンジしたかということが重要だと思っています。特に今は

DXの導入や働き方改革にタスクシフト・タスクシェアなど、各病院で新しいことに取り組まれているタイミングだと思います。「これくらいのことはどこの病院でもやってるよな」と思っていたとしても、それをどのように実践して、その結果どうなったのかということとは十分発表に値するものです。発表は15分間という短い時間ですし、軽い気持ちで出てみればいいのではないかと思います。

期待したいのは、企業の方の発表です。医療経営士の割合を見ると半数以上は企業の方ですし、企業の立場から医療経営の現場がどう見えているのか、企業としてどういう形で医療に関わっていこうとしているのかを教えてください。病院側からアプローチできる部分も増えてくると思いますし、今まで以上にできることが増えるのではないのでしょうか。病院と企業の連携はこれからもより重要になってくると思いますし、そういうつながりを医療経営士同士で盛り上げていくきっかけを演題発表の場で見せていただけると嬉しいです。

社会医療法人
加納岩財団事務局長・
宮沢圭一氏

事務局掲示板

1級資格認定者のみに許された特権
医療経営指導士の制度を活用しよう

当協会では医療経営士1級の方が申請できる「医療経営指導士」の制度を設けています。協会への登録申請により、「医療経営士」「医療経営指導士」の名称を冠した試験対策講座や研究会・講演

会の主催が可能となり、事業に伴う収益を得ることも可能。資格要件や申請方法の詳細については当協会ホームページでご確認ください。

「医療経営指導士」制度について

<http://www.jmmpa.jp/support/shidoushi/>

医療経営士の所属をPRしよう！
所属先の掲載ご協力をお願い

本協会のホームページでは、会員の皆さまから掲載の同意をいただいて、医療経営士が所属する医療機関・企業名を公開しています。

医療機関の抱えるさまざまな経営課題を迅速かつ的確に解決できる能力を持った医療経営士の所属先を公開する

ことで、経営力を持った医療機関であること、医療機関のマネジメントを支援できる人材を有する企業であることをアピールすることができます。掲載の同意をいただける方は、下記URLからご登録ください。

【ご登録はこちらから】

<http://www.jmmpa.jp/support/cat108>

TOPICS

2024年度「医療経営に関する研究助成」
懸賞論文・第6回「日本医療経営実践賞」
優秀賞1名が決定

当協会が研究費の助成を行う、2024年度「医療経営に関する研究助成」事業において募集した懸賞論文「日本医療経営実践賞」について、選考委員会（選考委員長・尾形裕也九州大学名誉教授）による厳正な審査の結果、優秀賞1本が決定した。

本年は応募が1本のみとなり、審査委員会でも受賞作を出すべきかどうかの議論が行われたが、内容を吟味したうえで、優秀賞として

十分に受賞足り得ると評価された。

受賞した梅本豊氏には盾と賞状が贈られるほか、WEBによる受賞講演を行っていただく。受賞講演については後日協会ホームページ上に掲載予定。

「論文」の名を冠してはいるが、「事例報告」による応募も可能。日頃の実践活動の成果を総括する機会として、ぜひ多くの方のチャレンジを期待している。

優 秀 賞

氏名（所属・肩書）	論文タイトル
梅本 豊（医療経営士3級） 医療法人恒昭会藍野病院 地域医療連携センター長 〔共同執筆者他4名〕	『「入院依頼の増加」を図り 『入院患者獲得』につないだ軌跡 ～病院競争の生存戦略 地域医療連携センターの強化～』

日本医療経営実践協会 支部研究会スケジュール

開催日	開催支部	テーマ	講師
7月19日(金)	関東	第51回神奈川研究会 「病院DXの進め方事例～重点を置くべきポイント～」	金城悠貴氏(済生会横浜市東部病院DX推進室副室長)
7月24日(水)	関西	“イチ”からわかる 介護経営オンライン塾 第3回「介護事業の経営戦略策定を学ぶ」	古株靖久氏(有限責任監査法人トーマツ) 熊田圭佑氏(Meister株式会社代表取締役)
7月26日(金)	関東	第3回 多摩研究会 「医療経営士が知っておきたい 医療DXの正しい進め方」	兵藤敏美氏(合同会社メディカル ソリューション パートナー代表)
8月7日(水)	関西	“イチ”からわかる 介護経営オンライン塾 第4回「介護事業の収益増加・費用削減と実行手法を学ぶ」	古株靖久氏(有限責任監査法人トーマツ) 熊田圭佑氏(Meister株式会社代表取締役)
8月9日(金)	東北	第23回みやぎ仙台ネットワーク 「生成AIが医療・介護に与える影響」	長英一郎氏(東日本税理士法人代表社員・医療経営指導士)

※日程等は変更になる場合があります。詳細は協会ホームページでご確認ください。



最新医療経営

最新情報を踏まえ新たな病院像を描く
「経営の時代」の羅針盤

PHASE3
フェイズ・スリー

8月号

好評発売中!!

緊急レポート

2024年度
改定の目玉

地域包括医療病棟を
もっと盛り上げる条件

2024年度診療報酬改定の目玉のひとつが、10年ぶりの新たな入院料として誕生した「地域包括医療病棟」。しかし、6月の施行を過ぎても申し出状況が芳しくないことが各団体のアンケートなどで浮かび上がっています。要件が厳しすぎるといった声も目立ちますが、どこに問題があるのか、盛り上がるための条件についての緊急レポートです。

詳細・ご購入は
コチラ



6月16日(日)実施「医療経営士」資格認定試験の合格者を発表

2級・3級試験ともに
病医院勤務者が最多合格

【表1】第27回2級試験および過去試験累計 結果概要

	第27回試験	第1～27回試験累計
受験者数	315 人	9,875 人
合格者数	93 人	2,738 人
合格率	29.6%	27.7%

【表2】第27回2級試験 年代別構成

年代	受験者数	合格者数	合格率
29歳以下	17 人	4 人	23.5%
30歳以上39歳以下	87 人	27 人	31.0%
40歳以上49歳以下	112 人	36 人	32.1%
50歳以上59歳以下	84 人	21 人	25.0%
60歳以上	15 人	5 人	33.3%

【表3】第27回2級試験 勤務先別構成

勤務先	受験者数	合格者数	合格率
病医院	94 人	36 人	38.3%
医療関連企業	68 人	17 人	25.0%
医薬品製造・卸売	87 人	18 人	20.7%
医療機器製造・販売	12 人	4 人	33.3%
金融機関	21 人	5 人	23.8%
大学生・短大生	0 人	0 人	0.0%
その他	33 人	13 人	39.4%

【表4】第42回3級試験および過去試験累計 結果概要

	第42回試験	第1～42回試験累計
受験者数	1,022 人	58,445 人
合格者数	402 人	24,739 人
合格率	39.3%	42.3%

【表5】第42回3級試験 年代別構成

年代	受験者数	合格者数	合格率
29歳以下	258 人	100 人	38.8%
30歳以上39歳以下	281 人	108 人	38.4%
40歳以上49歳以下	290 人	123 人	42.4%
50歳以上59歳以下	179 人	64 人	35.8%
60歳以上	14 人	7 人	50.0%

【表6】第42回3級試験 勤務先別構成

勤務先	受験者数	合格者数	合格率
病医院	316 人	126 人	39.9%
医療関連企業	203 人	87 人	42.9%
医薬品製造・卸売	267 人	109 人	40.8%
医療機器製造・販売	41 人	13 人	31.7%
金融機関	70 人	22 人	31.4%
大学生・短大生	12 人	6 人	50.0%
その他	113 人	39 人	34.5%

※2級および3級試験における勤務先別の「金融機関」は第3回(第6回)から、「医薬品製造・卸売」は第16回(第23回)から、「医療機器製造・販売」は第19回(第30回)から追加された(カッコ内は3級試験の試験回)

※勤務先別の「その他」には、弁護士、税理士等の士業、建設会社等の一般企業が該当する

一般社団法人日本医療経営実践協会は7月16日(火)、第27回「医療経営士2級」および第42回「医療経営士3級」資格認定試験(ともに6月16日(日)実施)の合格者を発表した。2級試験(全国11会場)は315人が受験し93人が合格。3級試験(全国19会場)は1,022人が受験し402人が合格した。両試験の結果詳細を掲載する。

病医院勤務者の
存在感が際立つ

2級受験者315人(うち採点対象者314人)に対し93人が合格、合格率は29.6%(前回30.5%)となった。30%台にはわずかに届かなかったものの累計の平均合格率は上回っており、2級受験者のレベルは確実に上がっているといえる。

年代別の合格者数では29歳以下の方が4名と非常に少なくなっている。合格率も23.5%(前回38.7%)

と前回から大きく数字を落としており、若い世代が苦戦している様子がうかがえる。

勤務先別では、受験者数、合格者数とも最も多い病医院勤務者において、合格率が38.3%と高くなっている。医療経営士全体の職種別割合において病医院勤務者が占める割合は18.9%(2024年5月末現在)

となっているが、今回の2級試験においては病医院勤務者の存在感が目立つ結果となった。

大学生・短大生が躍進
医療経営士の未来に期待

3級受験者1,022人のうち402人が合格、合格率は39.3%(前回37.4%)となり、第31回試験以来の40%代には惜しくも届かなかった。

年代別に見ると、受験者、合格者とも40歳以上49歳以下が最も多く、以下30代、20代と続く。40代は合格率も40%を超えている。

仕事でもマネジメントが求められる年代であり、試験に向けたモチベーションの高さを感じられる。

勤務先別では受験者数、合格者数ともに病医院勤務者が最多。以下、医薬品製造・卸売、医療関連企業と続き、それぞれ合格率は40

%前後と拮抗している。一方で医療機器製造・販売と金融機関は合格率31%台と苦戦している様子がうかがえる。

今回の試験で目立ったのは、これまで苦戦することの多かった大学生・短大生の躍進で、12人が受験し6人が合格。人数は少ないが他の勤務先別の数字と比べても突出したレベルの高さを見せた。

人口減少による働き手不足が叫ばれる医療界において、これからの医療を背負う若い方々がこれだけの結果を出してくれたことは大変心強く、医療経営士の明るい未来を感じさせるものと言えるのではないだろうか。今後の活躍に大いに期待したい。

受験エントリーまもなく締切! ➡7月29日(日)まで

第12回

医療経営士

1級

資格認定試験

試験日

第一次試験

9月8日[日]

第二次試験

12月8日[日]

受験形式

- ①短文記述形式(10題・90分)
②論文記述形式(2題・90分)

面接試験

- ①口頭試問(プレゼンテーション形式)
②個人面接

試験エントリー期間

7月1日(日)～7月29日(日)

受験料支払締切日

7月30日(火)

受験料

50,000円

※税込、振込手数料別途(受験者負担)

試験会場

東京都(中央区内)

医療経営士の最上級位にチャレンジしよう!